小豆島ふるさと村　全体整備基本計画
コンセプトブック

令和６年2月

小豆島町
SHODOSHIMA

目次

第１章　現状と課題の整理

01　周辺エリアの現状と課題　4
02　小豆島ふるさと村の現状と課題　5

第２章　コンセプト / 整備基本方針

01　持続可能な観光地としての取組み　8
02　コンセプト　9
03　整備基本方針　10

第3章　事業対象区域及びゾーニングの設定

01　事業対象区域　12
02　ゾーニング　13

第4章　需要圏域・利用者層及び利用者数の設定

01　需要圏域の設定　16
02　利用者層の設定　18
03　利用者数の設定　20

第5章　アクセス・動線及び各ゾーンの空間構成

01　島内からのアクセス　22
02　小豆島ふるさと村内の動線　24
03　各ゾーンの空間構成　26

第6章　各ゾーンの整備水準　31

第7章　今後の事業展開　35

本計画で使用する用語・アイコンの定義

観点

- ヒト：人口や担い手を表す
- 環境：自然・観光・教育等のコンテンツを表す
- 産業：伝統産業や農業・漁業を表す
- 移動：観光客や島民の移動手段を表す

移動手段

- 歩行者：徒歩による移動の動線を表す
- 自動車：自家用車 / レンタカー / 搬入車両等の動線を表す
- その他：歩行者・自動車以外による移動の動線を表す

港

土庄港　池田港　福田港　坂手港

ゾーニング

- 宿泊ゾーン
- 道の駅・海の駅ゾーン
- 体験・滞在ゾーン
- キャンプゾーン

事業展開

- 連携：小豆島町と新たな主体の協力を表す。
- 向上：各産業が成長することを表す。
- 予定：今後の事業スケジュールを表す。

用語

- コンテンツ：体験プログラムやツアーを観光客及び島民に提供するため活用できる地域資源のこと
- インバウンド：外国人が訪れてくる旅行のこと
- ミドル世代：35歳～54歳の年齢層

第1章 現状と課題の整理

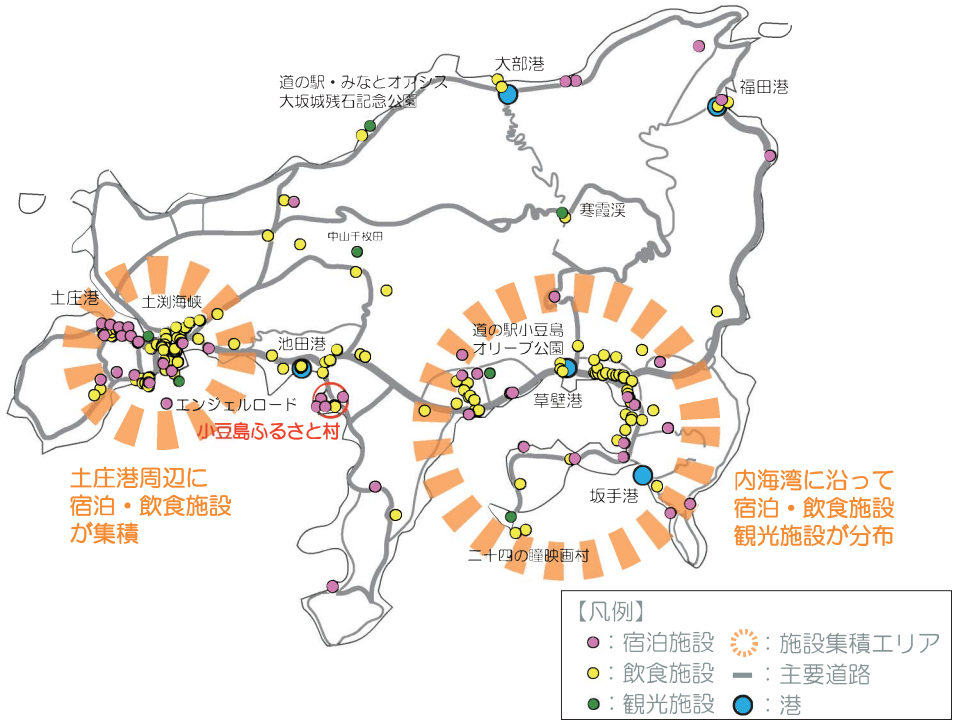
01. 周辺エリアの現状と課題

■小豆島の現状

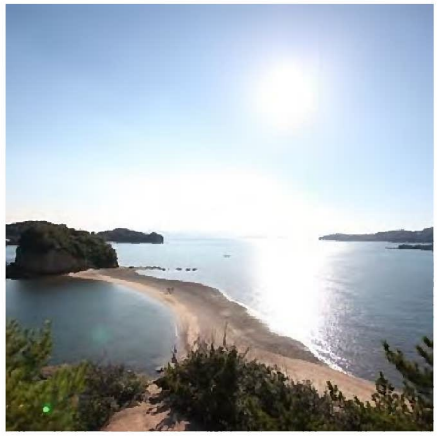
- 少子高齢化による産業の担い手不足、コロナ禍を契機とした観光客数及び宿泊施設数の減少、飲食店の不足
- 豊かな自然を活かした多彩なコンテンツが、港を中心に分布
- オリーブを筆頭に島の気候を活かした農産物や、醤油・佃煮・そうめん等の伝統的な食品産業が盛ん
- 日常生活・観光客の島内における貴重な移動手段として路線バスが運行

■小豆島の課題

- 観光客の滞在時間の長時間化、若者・ファミリー層の集客が必要
- 島固有の自然環境の保全と活用、観光コンテンツの充実が必要
- 伝統産業の継続的な発展が必要
- 島内の観光施設をつなぐ移動手段の拡充が必要

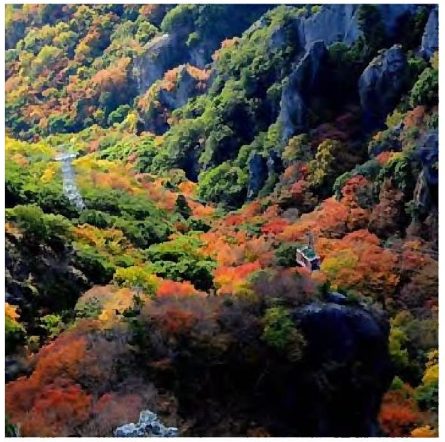


小豆島観光コンテンツ分析図



出典：https://www.my-kagawa.jp/point/306/

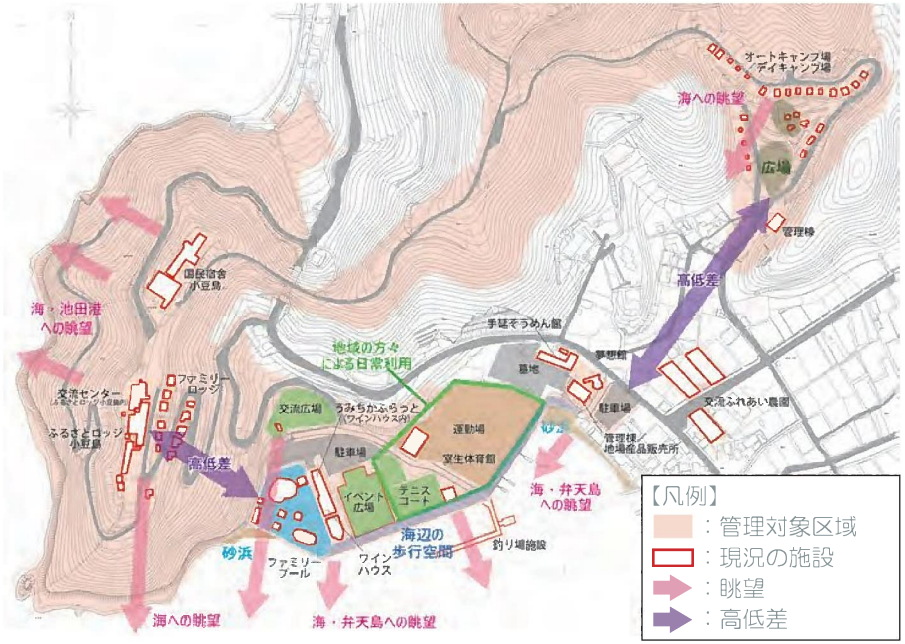
エンジェルロード



出典：https://www.my-kagawa.jp/point/219/

寒霞渓

02. 小豆島ふるさと村の現状と課題



小豆島ふるさと村敷地分析図

現況の広場と園路

弁天島への眺め

■小豆島ふるさと村の現状

- コロナ禍を機に入込客数が大きく減少し、人手不足により稼働率も低下
- 眺望がよく海を身近に感じられる一方で、敷地が広大で高低差があるため一体的な利用がしにくい
- 手延そうめん館での実演・試食体験の提供、道の駅や国民宿舎での土産物販売等による地域振興の取組
- 池田港から路線バスでアクセス、豆モビで島内を周遊できるが、敷地内における回遊が難しい

■小豆島ふるさと村の課題

- 観光・生活の拠点として立ち寄る人の増加、民間活力導入による働き手確保と運営の効率化が必要
- 海への眺望や地形を活かしたコンテンツ、滞在時間を延ばせるアクティビティや機能の整備が必要
- 島の伝統的な産業を活かした体験コンテンツの提供が必要
- 敷地内の回遊性向上や、島内観光地間の移動の利便性向上が必要

第2章 コンセプト / 整備基本方針

01. 持続可能な観光地としての取組み

■小豆島の持続可能性

レイヤー３

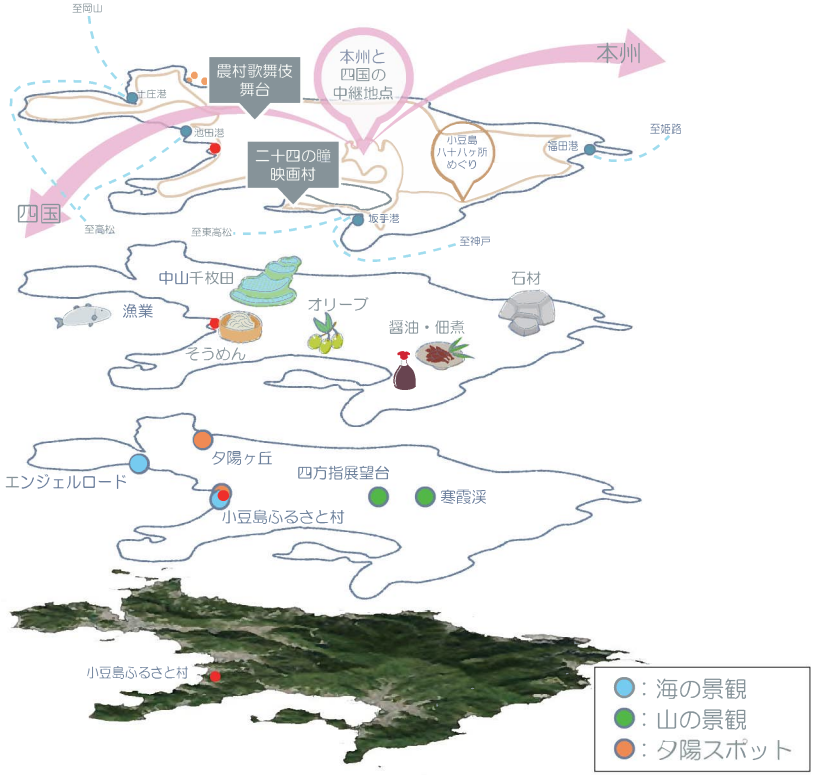
＜レイヤー３：文化・伝統＞
・人々の交流（瀬戸内海の中継地としての役割）
・信仰と祭礼（小豆島霊場八十八か所、太鼓祭り）
・文化と芸能（石の文化、農村歌舞伎舞台、二十四の瞳映画村）

レイヤー２

＜レイヤー２：生業＞
・地域産業（醤油、そうめん、佃煮、石材）
・農業（オリーブ、中山千枚田）
・漁業

レイヤー１

＜レイヤー１：自然＞
・瀬戸内海（夕陽、エンジェルロード）
・寒霞渓、四方指展望台



小豆島は大規模な開発がされず、古くから残っている自然・産業・文化が多いことで、島独自の暮らしや体験を提供できる環境にある。

山地が中心の地形と穏やかな気候に、農業や地域産業をはじめとした特徴的な生業、文化・伝統が重なることで、持続可能な観光地が形成されている。

■持続可能な観光地としての取組み内容

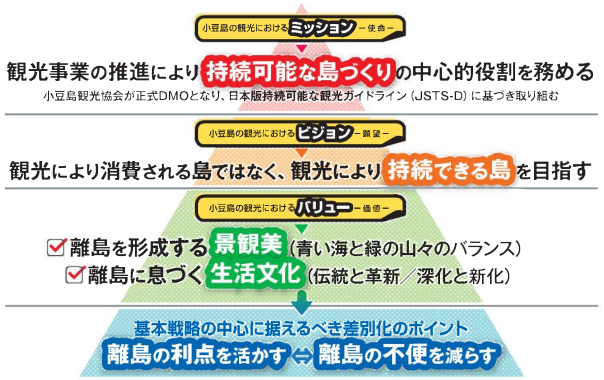
世界の持続可能な観光地 TOP100

小豆島町は、2021 年から２年連続で、「世界の持続可能な観光地 TOP100」に選出されている。

「持続可能な観光」とは、「自然」「文化」「伝統」「そこに暮らす人々」などの地域資源を生かし、旅行者を受け入れ、地域経済を発展させながら、同時に自然環境や文化、伝統を守るという、「そこに暮らす人々」の未来にも十分に配慮した観光のかたちを示すものである。この取組について広く知られることで、持続可能な社会の形成に関心が高い国内外の観光客の誘客が期待できる。

小豆島観光ビジョン／土庄町・小豆島町

小豆島町では、土庄町とともに、小豆島観光ビジョンを令和６年１月に策定しており、「観光事業の推進により持続可能な島づくりの中心的役割を務める」ことを小豆島の観光におけるミッションとして掲げ、観光により持続できる島を目指している。



出典：小豆島観光ビジョン（令和６年１月）／土庄町・小豆島町

02. コンセプト

■小豆島ふるさと村全体整備基本計画

あるべき姿	コンセプト
観光・交通及び産業の 結節点として、まちづくりと 相乗効果を発揮する施設	人と自然・島を再びつなぐ ECO VILLAGE ～持続可能なしまづくり～

■小豆島ふるさと村将来ビジョン（令和３年 11 月）／小豆島町

メインテーマ　～ECO VILLAGE（エコ・ヴィレッジ）～

Ⅰ　自然を育む

① 地域や土地所有者等の関係者と目標を共有し、小豆島ふるさと村を取り巻く自然環境の保全・再生を行います。
② 豊かな自然環境を活用した体験メニューを通じて、自然の素晴らしさを多くの人に伝えます。
③ 自然環境の守り手となる人材の育成を行います。

自然環境の保全・再生
小豆島の四季を集約

Ⅱ　自然と人を繋ぐ

① 自然と人の繋がりを再生し、自然の恵みを実感できる機会を提供します。
② 地域の文化、産業を旅行素材商品として磨き、地域の魅力や活力を引き出します。
③ 文化・産業の価値をストーリーとして発信します。

産業・文化と観光を結ぶ
体験型観光施設

Ⅲ　人と人を繋ぐ

① 島内外の多くの人が訪れやすい観光施設として、安全・安心・快適な利用環境の確保に努めます。
② 「道の駅・海の駅」と「宿泊施設・キャンプ場」の回遊性を向上させます。
③ 民間事業者やボランティア等多様な主体と連携します。

地域住民と観光客を繋ぐ
空間・機会の提供

出典：小豆島ふるさと村将来ビジョン（令和３年 11 月）／小豆島町

03. 整備基本方針

小豆島ふるさと村将来ビジョンにおいては、施設の老朽化等すべてをメンテナンスしていくのは費用面からも現実的でないため、「投資の大胆な選択と集中による整備」を行うとされている。また、現状の土地利用をベースに、４つの区分にエリア分けされ、各エリアの方向性が示されている。

本計画では、小豆島ふるさと村将来ビジョンで定められた４つの区分を発展させて４つのゾーンに置き換え、それぞれの名称と整備基本方針を設定した。

出典：小豆島ふるさと村将来ビジョン（令和３年11月）／小豆島町

小豆島ふるさと村将来ビジョンにおけるエリア設定と整備方針

①宿泊施設エリア

宿泊ゾーン

民間活力を最大限活用し、小豆島随一の宿泊体験を提供する機能の整備

出典：https://www.villaurara.jp/gallerys/
Villa URARA THE COAST

②体育施設エリア

体験・滞在ゾーン

様々な体験コンテンツで、新たな滞在アクティビティの拠点となる機能の整備

出典：https://rppm.jp/
リバーポートパーク美濃加茂

③道の駅・海の駅エリア

道の駅・海の駅ゾーン

観光、交通及び産業のハブとして、小豆島の情報と魅力の発信拠点となる機能の整備

出典：https://www.grahambaba.com
THE KENMORE HANGAR

④キャンプ場エリア

キャンプゾーン

道の駅・海の駅ゾーンと連携し、新たな商品開発やイベント等が可能となる機能の整備

An Eland